

# 決めうち この1本

## りん たいこ

ライター。「週刊エコノミスト」や「FLIX」などで映画紹介やインタビュー記事を手掛ける。【近況】またも家庭菜園ネタで恐縮ですが、茄子が好調で、すでに5本収穫しました。不調なのがトマト。葉ばかりが成長し、一向に花が咲きませぬ。もう少し様子を見て、対策を考えたいと思います。



© 2024 映画「ラストマイル」製作委員会

## ラストマイル

8月23日より全国で公開

監督：塚原あゆ子

出演：満島ひかり、岡田将生、ディーン・フジオカ、火野正平、阿部サダヲ

2024年／日本／129分／東宝配給

数々の傑作ドラマの演出を手掛けてきた監督の塚原あゆ子と、脚本家の野木亜紀子。この2人のタッグが映画で実現。2018年放送のドラマ「アンナチュラル」と、20年のドラマ「MIU404」と世界観を一にし、その主要なキャラクターが要所所で顔を出す豪華な作品が誕生した。

### 現実社会と重なる事象

11月、流通業界最大のイベントのひとつ、“ブラックフライデー”の前夜、世界規模のショッピングサイト「DAILY FAST」、通称「デリファス」から配送された荷物が爆発する。やがてそれは連続爆破事件に発展。事態の收拾にあたるのは、デリファスの

● 物流倉庫のセンター長に着任したばかりの舟渡エレナ（満島ひかり）と、入社2年目のチームマネージャー、梨本孔（岡田将生）。誰が、何のために荷物に爆弾を仕掛けたのか。真相の究明に奔走するエレナたちの4日間を描く。

● このエレナという女性は、着任早々とんでもない事件に巻き込まれながらも持ち前のバイタリティを発揮して仕事をこなしていく。人懐っこさも彼女の武器だ。もっとも、初対面で孔のことを呼び捨てにしたのにはいささか面食らったが、そのぐらいの気安さがなければ人の上には立てないのだろう。

● 一方の孔は、冷静だがその分、冷たい印象を与え、人によっては苦手意識を持たれるタイプ。そんな2人が時に警察と対立しながら、自社、ひいては

## 連続爆発事件の真相を追う社会派サスペンス

物流業界の危機を回避しようと奮闘する姿は、たまらなくスリリングだ。

この企画の出発点は、塚原監督の「家に届く荷物がもし爆発したら」という考えからだそうだが、可能性がゼロではない設定だけに怖い。ほかにも、現実社会と重なる事象がちらほらあり、「荒唐無稽な話」で済まされないリアリティがある。注文すると、早ければ翌日には届く荷物。私たちは、それが当然のことだと思っているが、そこには巨大な物流網と緻密な配送管理システム、そして大勢の人間が介在している。自分たちがそうした利便性をいかに無自覚に享受しているか。それを大いに痛感させられる。

### 見る者に考える機会

「ラストマイル」とは物流において、お客へ荷物を届ける過程の最後の区間を表す言葉だという。本作は、これまでみんなが気付きながら、なかなか改善できない物流業界の問題に果敢にメスを入れている。その問題のひとつが、「安さ」と「速さ」を求める私たち客だ。ほかにも、はっと胸を突かれる言葉や出来事が、この作品にはある。エンターテインメント作品でありながら社会性も備え、見る者に考える機会を与える。さすが、塚原・野木タッグの作品

です。

「ラストマイル」で興奮と緊張を味わったら、今度は肩の力を抜いて楽しんでみては？ というわけで、もう1本ご紹介したいのが、「スオミの話しよう」(9月13日公開)。三谷幸喜監督が脚本も書いたミステリーコメディ。スオミという女性が失踪し、彼女の家に集まった今の夫と4人の元夫が、スオミとの思い出を語りですが、彼らが話すスオミは、見た目も性格もまるで別人で……。

往年のハリウッド映画の匂いと品の良さがそこかしこに感じられ、また三谷監督らしい設定と演出で失笑することもしばしば。なんととっても感嘆するのは、長澤まさみ演じるスオミの華麗な(?)変貌ぶり。そんな彼女を取り巻く、坂東彌十郎、西島秀俊らが演じる、すこぶるユニークな夫と元夫たちのやりとりは、愉快なことこのうえない。彼らが歌い踊る、三谷監督曰く「かつてのMGMミュージカル風」のエンディングまで、一気に楽しめること請け合いです。

映画「ラストマイル」の一場面。事態の收拾にあたるエレナ(右)と孔(左)

